
雪の日の足跡

九条 水菜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雪の日の足跡

【Nコード】

N4985T

【作者名】

九条 水菜

【あらすじ】

市丸ギンはもう帰ってこない・・・まだ流魂街時代の乱菊が死神になることを決意した日・・・

・・・ギン・・・ギン・・・
・・・どうしていなくなっちゃうの？・・・

私はずっと火鉢の前で丸くなっていた。

ギンは行き倒れの私を助けてくれた人・・・

そして・・・一緒に手を取り合って生きてきた人・・・

これからも変わらないと思っていたのに・・・

「会いたいなあ・・・」

彼はここにはもう戻ってこない。

もともと放浪癖があり・・・一年戻ってこなかったときも
まあそのうち、ひょっこりもどってくるさ！

ってかんじで待っていた。

・・・でも今回は違う。

彼は死神になってしまった。

自分とは遠い世界にいつてしまった。

ぐうぐう

腹の虫になる。

そういえばここ数日なにも口にいられていない。

・・・このまま死んでもいいかもしれない。

もう・・・彼に会えないなら・・・

ゆっくりと目を閉じた。

・
・
・
・
・
・

「寝るんじゃないよバーカ！！！」

ガッン！！

「いったーい！！何すんの！？」

いきなり頭の上に振ってきた拳骨。

頭を押さえながら上を向くと、自分とさほど歳が変わらない少女がいた。

銀色の髪に白い羽織に死覇装の少女・・・

「こんなところで寝てたら死んじゃうよ。
火鉢に火もないし。」

いつの間にか火が消えていた。

「ほら、食べなよ。」

出されたのは干し柿・・・
脳裏にギンが浮かぶ。

「あんた・・・死神？」

「見りゃわかるでしょ？」

「：市丸ギンって知ってる？」

少女は少し考えた。

「いや、少なくとも九番隊にはいないよ。」

「九番隊？」

「そう！私、六車九番特攻隊のアズマっていうんだ。」

アズマはそういつて羽織を私に見せた。

『六車九番隊』

そう印刷されている。

「どんな人？」

「：こんぐらいの背で、狐みたいな目をしてる子で：」

「あっ！知ってる知ってる！！」

私と霊術院同期の子だよ。」

「：ギンが！？」

「うん。私も二年で卒業したから注目されてたんだけど、あいつはね、一年で卒業したんだよ。」

ごめんね：私さあ人の名前覚えるの苦手だから・・・」

すまなそうな顔をするアズマ。

「：謝らないで。」

居場所がわかったから・・・」

少しうつむいた。

ほんとに死神になったんだ・・・
もう・・・あと追えないや・・・

「あんたは死神にならないの？」

私はきょとん：とした

「私が：死神？」

「うん。霊力の素質高そうだし。

今は睦月の半ばだから・・・

まだ間に合うし・・・。」

そういうとアズマは立ち上がった。

「もう吹雪もやんだし：私は行くよ。

覚悟決めたら：これ持って霊術院に行きなよ。」

懷から紙を推薦用紙を出すと自身の名前を書いた。

「一応、私は二十席だから：これ持っていくと受かりやすいかもよ？」

ニィーとアズマは笑うと小屋から出て行った。

「死神・・・か・・・。」

去っていく姿を見てつぶやく。

足跡ひとつ、ついていない真っ白な大地にアズマの足跡だけが残る。
瀨霊廷に向かうアズマの足跡が・・・

「私も・・・死神になろうかな・・・。」

私は目をつむった。

脳裏に最愛の人が浮かんでくる。

ギン：ギン・・・

私も死神になるよ。

あんたにおいて行かないように・・・
次あったら手を離さないから・・・

瀨霊廷に続く足跡をじっと見つめる。

…松本乱菊が死神になることを決意した日…

(後書き)

アズマというのは作者が連載中のSSの主人公です。

ほんとに乱菊と市丸は幸せになってほしかった・・・

読んでくださり、ありがとうございました！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4985t/>

雪の日の足跡

2011年10月9日02時43分発行